

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 } 殿  
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

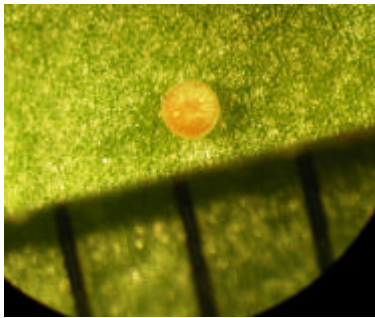
平成20年度病虫害発生予報第6号(10月)について

このことについて、病虫害発生予報第6号を発表したので送付します。

## オオタバコガ・コナジラミ類の発生に注意！！

### 野菜、大豆のオオタバコガ

オオタバコガの発生が増加しています(別添グラフ参照)。幼虫は、作物の生長点付近の茎葉や花蕾を加害し、密度が低くても被害が大きくなります。ほ場をよく観察し、効果の高い若齢幼虫期に防除を徹底しましょう。



卵

(直径0.5mm程度の饅頭型)



ふ化直後の幼虫

(体色は淡褐色で頭部は黒褐色)



老齢幼虫

(体にまばらに生えた毛がある。色は緑～褐色までさまざま)

### 野菜のコナジラミ類

コナジラミ類についても、早い時期から発生が増加しています(別添グラフ参照)。タバココナジラミ類は、トマト黄化葉巻病やキュウリ退緑黄化病(仮称)を媒介するため、トマト、キュウリでは特に注意が必要です。防虫ネットを設置する等、育苗期から防除を徹底しましょう。



タバココナジラミ成虫



トマト黄化葉巻病



キュウリ退緑黄化病(仮称)

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。予報期間の前半は気温の変動が大きいです。

向こう1か月の気温は高いでしょう。降水量は少なく、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か低く、2週目は高く、3～4週目は平年並か高いでしょう。

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	40	30	30
日照時間	30	40	30

(福岡管区気象台 平成20年9月26日発表抜粋)

予報第6号

向こう1か月間の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
		平年比	平年比	前年比
大豆	吸実性カメムシ類	やや多	やや多	やや少
かんきつ	ミカンハダニ	並	並	並
かき	炭そ病	並	並	やや多
果樹共通	カメムシ類	やや多	やや多	多
野菜共通	コナジラミ類 オオタバコガ	やや多 やや多	やや多 やや多	やや多 やや多

注：果樹共通カメムシの平年比は、後期発生年の前7か年平均比

作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の( )書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

【普通作物 - 大豆】

1 吸実性カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 9月5日半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)

ミナミアオカメムシ

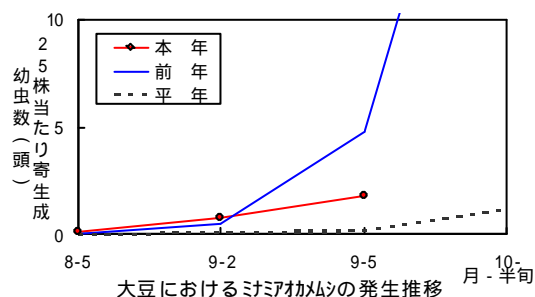
25株当たり成幼虫数 1.7頭 (平年 0.1頭、前年 4.8頭)

発生ほ場率 31.8% (平年15.2%、前年38.9%)

3種吸実性カメムシ類 (アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ)

25株当たり成幼虫数 0.6頭 (平年 1.8頭、前年 1.4頭)

発生ほ場率 31.6% (平年36.8%、前年33.3%)



- イ 県下3か所の予察灯における9月1～5半旬までのミナミアオカメムシの合計誘殺虫数は、136頭（過去5か年平均41頭、前年137頭）と前年並で過去5か年平均より多かった（+）。
- ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高いとされている（+）。

(3) 防除上の注意

- ア 本種の加害は収穫期まで続くので、必ずほ場での発生状況の把握に努め、発生が多い場合は防除を行う。
- イ 薬剤散布を行う場合には、薬剤が着莢部によくかかるように丁寧に散布する。なお、カメムシ類は広範囲に移動するので、広域一斉防除の効果が高い。
- ウ 水稲収穫後、隣接した大豆ほ場へのミナミアオカメムシの飛来が懸念されるので、大豆ほ場での発生状況に十分注意する。
- エ ミナミアオカメムシに対しては、シラフルオフェン剤の防除効果が低いので、効果の高いジノテフラン剤又はクロチアニジン剤を使用する。
- オ 防除に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散（ドリフト）防止の徹底を図る。

【果樹】

1 かんきつのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

- ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

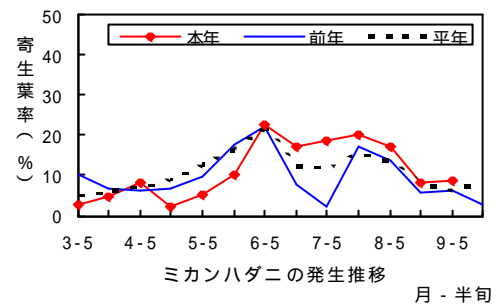
寄生葉率 8.8%（平年6.2%、前年6.2%）

発生ほ場率 56.3%（平年43.7%、前年28.6%）

- イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている（+）。

(3) 防除上の注意

- ア 果実に寄生が認められる場合は、薬剤防除を実施する。
- イ 防除に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散（ドリフト）防止の徹底を図る。特に薬剤の選定に当たっては、使用時期（収穫前日数）に注意する（以下の病害虫についても同じ）。



2 かき炭そ病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

- ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

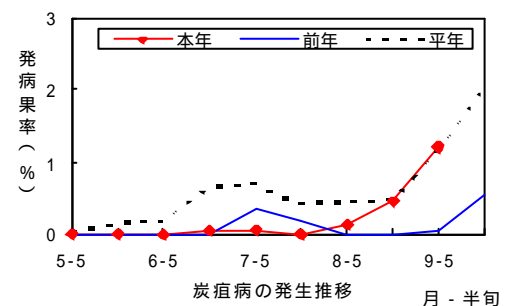
発病果率 1.2%（平年1.2%、前年0.1%）

発生ほ場率 57.1%（平年48.6%、前年6.3%）

- イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている（-）。

(3) 防除上の注意

- ア 伝染源である罹病枝及び罹病果は除去する。
- イ 台風等の強風雨が予想される場合は薬剤防除を徹底する。



### 3 果樹共通のカメムシ類

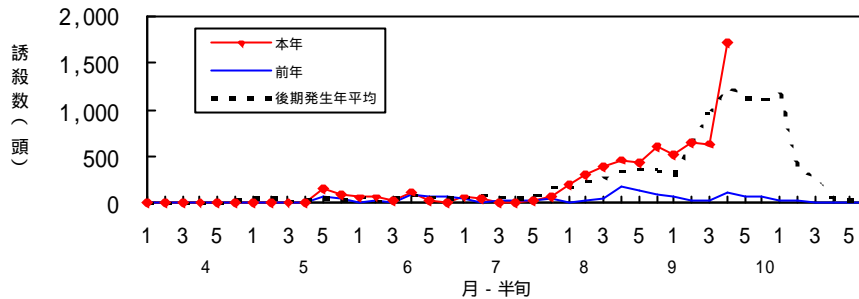
#### (1) 予報の内容

発生量：後期発生年の7か年平均よりやや多、前年より多

#### (2) 予報の根拠

ア 県下27か所における9月5半旬のヒノキのビ-ティング調査では、寄生虫数（主要3種（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ））は平均13.6頭（7か年平均15.2頭、前年2.1頭）と7か年平均並である。9月2半旬調査時より減少しているものの寄生虫数は多く、ヒノキからの離脱が続いている（±）。

イ 県下6か所の予察灯における9月1～4半旬の主要3種カメムシの平均誘殺数は3,520頭（7か年平均3,151頭、前年254頭）と7か年平均よりやや多い（+）。



予察灯における主要3種カメムシの誘殺数の推移  
（県内6か所平均）

ウ 9月5半旬調査の結果、かき被害果の発生量は平年並である（±）。

被害果率 2.9%（平年2.7%、前年0.1%）

発生ほ場率 64.3%（平年54.6%、前年12.5%）

エ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている（+）。

#### (3) 防除上の注意

カメムシ類は通常は夜行性であるが、夜温が下がると昼間も移動し果実を吸汁加害するので、昼間でも果樹園への飛来に注意する。

#### 【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かき ゾクカガラムシ	やや少	やや少	やや少	・カメムシ防除で合成ピレスロイド系剤を多用した翌年は、本種が多発する傾向があるので注意する。

#### 【野菜】

##### 1 コナジラミ類（野菜共通）

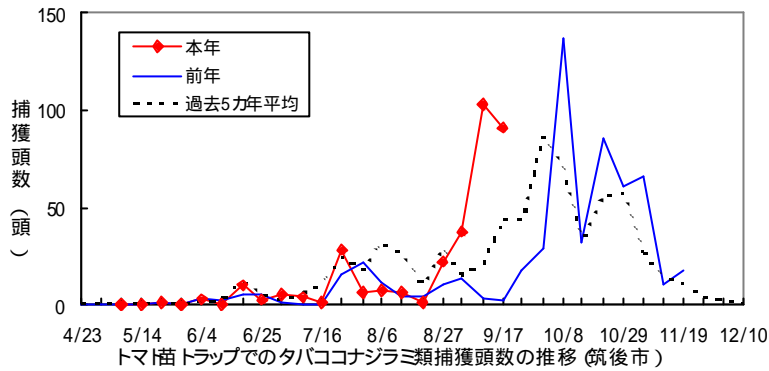
#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア トマト苗トラップにおける9月1半旬～5半旬の捕獲頭数は、平年より多かった（+）。

筑後市 204頭（過去5か年平均80.2頭、前年18頭）



イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている(+)。

(3) 防除上の注意

ア ほ場内外の雑草の除去を徹底し、害虫の生息、増殖源を絶つ。

イ 幼虫や蛹が寄生している下位葉は、できる限り除去する。

ウ 葉裏や下位葉にも、薬液が十分かかるよう散布する。

エ タバココナジラミ類は、トマト黄化葉巻病(TYLCV)、キュウリ退緑黄化病(仮称)(CCYV)の媒介虫である。ハウスサイドや天窓等、施設開口部に0.4mm目合いの防虫ネットを設置し、媒介虫の侵入を防ぐ。

2 オオタバコガ(野菜共通)

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

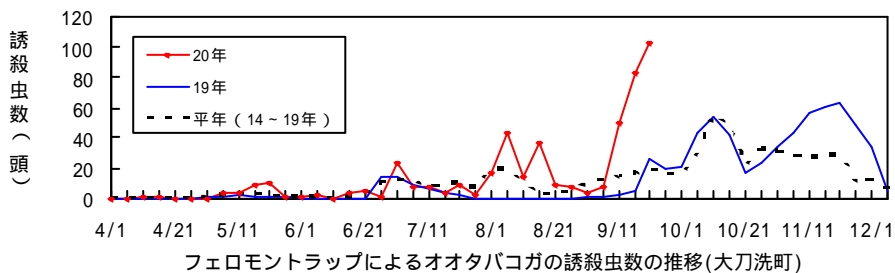
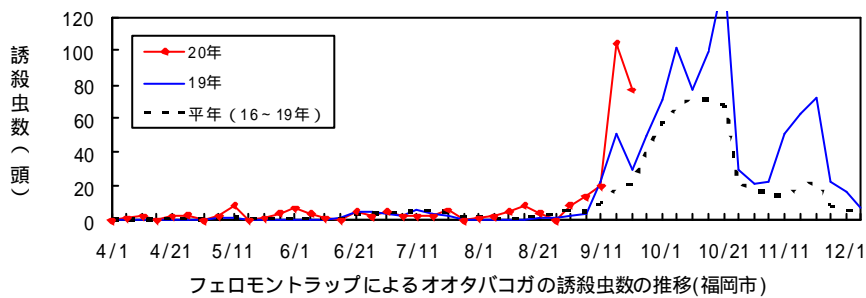
イチゴ寄生株率 0.7%(平年 0.6%、前年 0%)

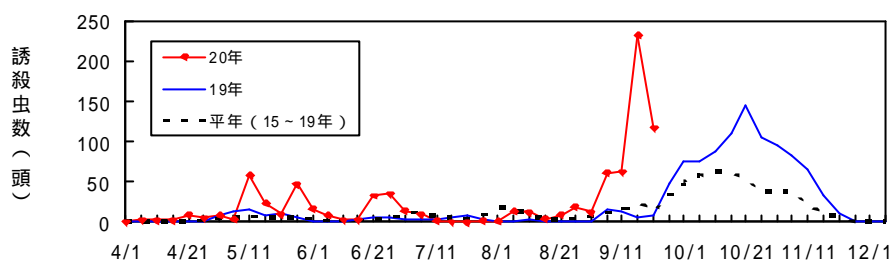
イ フェロモントラップにおける9月1半旬～5半旬の誘殺虫数は、平年より多かった(+)

福岡市西区 225頭(平年61.3頭、前年110頭)

三井郡大刀洗町 247頭(平年73.3頭、前年 35頭)

みやま市 485頭(平年70.0頭、前年 40頭)





フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺虫数の推移(みやま市)

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている(+)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は、孵化直後の幼虫をねらって行う。中齢以降の幼虫は未熟果や結球部位に食入するため、防除効果が著しく低下する。

イ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
アスパラガス 斑点性病害	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 散布ムラができないように、丁寧に散布する。</li> <li>・ ほ場内外の雑草を徹底して除去し、本種の増殖源を絶つ。</li> </ul>
アザミウマ類	並	並	並	
ハダニ類	並	並	並	
アブラムシ類	やや少	やや少	並	
イチゴ うどんこ病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビニール被覆前後は、発生が多くなるので、重点的に防除する。</li> <li>・ 発病残渣は、周囲の土ごと掘り取り、ほ場外で処分する。</li> <li>・ ビニール被覆前までは感染の恐れが高いため防除を行う。</li> <li>・ ほ場内外の雑草を徹底して除去し、本種の増殖源を絶つ。</li> <li>・ 多発生後は防除が困難となるので、初期防除に努める。</li> <li>・ 防除は、摘葉後に行うと効果が高い。</li> <li>・ チリカブリダニ等を利用する場合は、殺ダニ剤の散布等により、ハダニ類の密度を下げて行う。</li> </ul>
炭疽病	並	並	やや多	
アブラムシ類	やや少	やや少	やや少	
ハダニ類	並	並	並	

作物名 病虫害名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
ナス うどんこ病	並	並	並	・ 整枝、剪定を行い、通風をよくする。
野菜共通 ハスモンヨトウ	やや少	並	並	・ 若齢幼虫は群生しており、かすり状の葉をみつけたら直ちに除去する。 ・ 今後の発生状況については、病虫害防除所のホームページを参照する。
ミナミキイロ アザミウマ	並	並	並	・ ほ場内外の雑草を徹底して除去し、本種の増殖源を絶つ。

## 農薬の適正使用、飛散防止対策の徹底を！

全ての農薬の残留基準が農作物毎に設定され、基準値を超えた食品（農産物）は販売が禁止されます。

農薬の使用に当たっては、ラベルを確認し農薬の使用基準を厳守するとともに周辺に飛散（ドリフト）しないよう対策を講ずるなど注意を払って下さい。

### 1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数のなどラベルを確認し使用基準を遵守する。

噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

### 2 飛散防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

### 3 防除履歴の記帳

薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳する。

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka>  
電子メール [kfok0301@sp.jpnp.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jpnp.ne.jp)